



# 清風

南砺市立上平小学校  
学校だより  
令和4年10月  
上平小学校ホームページ  
<http://kamitaira-e.el.tym.ed.jp>

## 子供たちの成長の機会に

校長 中町 寿子

今年度の学習発表会は、新型コロナウイルス感染症の収束する気配がない中、発表内容や形式に見直しを掛けて行いました。学習発表会のねらいについては、3つ考えています。①発表の機会を通して、自分にどのような力が付いたのかを実感できること。②協力して創り上げる喜びを味わえること。③来校していただいた保護者や地域の方々に子供たちの様子を見ていただくことで連携を深められる機会になること。ただ、座席数を昨年度の1.5倍に増やしたとはいえ、参観者数を制限せざるを得ず、地域の方々にはご迷惑をおかけしております。

さて、これらのねらいは、学年単位での発表会だったとしても、達成できそうです。全校で行う意味。異学年の子供たちが同じテーマに向かって発表の機会をもつことに大きな意味があります。まず、高学年を中心に、実践的な活動を通して主体的に企画・運営する力を身に付けることができます。また、他の学年の発表を見ることで、構成や表現力の面白さに刺激を受けるだけでなく、他の学年のよさに気付いたりあこがれや目標をもったりする機会になります。今年は、予行練習も含めて、本番も他の学年の発表を鑑賞する機会をとりました。野菜づくりを経験した様子を工夫して伝えた低学年。五箇山の宝は、ふるさとを大切に思う心から生まれていることを伝えた中学年。さらに、日本の歴史や自分の成長の過程を表現した高学年からは、これまでの学びと感謝の気持ちが伝わってきました。そして、民謡。詳しくは、下記の特集で紹介していますが、3年ぶりに衣装をまとうことについて、背中を押してくださったのは、保存会の方々や、酒井PTA会長さんでした。衣装を着けて踊る子供たちの美しさは、格別でした。全校児童が一つになる学習発表会になりました。ありがとうございました。

### 《ほのぼの上平っ子4》

#### 月に一度の一次避難訓練

これは、休み時間や清掃時に、子供たちが放送を聞いて自分で状況を判断し、集合・避難をするというものです。必ずしもそばに教職員がいるわけではありません。さて、2年生の二人がちょっと集合場所に遅れてやってきました。何があったのでしょうか。理科室前にいた二人は、非常ベルを聞いて、金魚とメダカが心配になったそうです。金魚の水槽を支えなければ倒れるのではないかと思い、二人で支えていたそうです。火災なのか地震なのかは、訓練時の非常ベルだけでは判断できないことですが、自分にできる精一杯のことを考えて実践したのです。このような経験を積み重ねることで、素敵な二人は、正しい判断と適切な行動を身に付けていくのだと思いました。

## 伝統を受け継いで

民謡担当 藤原 夏樹

本校では1学期後半から学習発表会までの間、民謡教室を実施しています。

子供たちは保存会の方に指導していただき、踊りの動作やその動きが何を表現しているのか、歌詞の意味等、たくさんのお話を学ぶとともに、民謡を守り伝えようとする保存会の方々の熱い思いを感じ取りながら、練習に励んできました。自信をもって演舞できるよう、分からないところを質問したり、友達と教え合ったりする子供たちの姿からは、五箇山の伝統に誇りをもち、受け継いでいこうとする思いを感じました。

今年度の学習発表会では、3年ぶりに衣装を着け、民謡発表を行いました。衣装を着せてもらい、嬉しそうな子供たち。いざ本番となると、どの子も凛とした表情で演舞していました。衣装を着ることで、「自分は民謡を受け継いだ」という思いが一層深まったようでした。

民謡の指導や着付けなど、保存会や保護者の皆様にはたくさんのお力添えをいただきました。地域ぐるみでのご支援に改めて感謝申し上げます。

